

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社 サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里		
所在地	千歳市住吉4丁目8-14 (電話) 0123-26-5886		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月29日

【情報提供票より】 (20年 11月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人 非常勤 1人 常勤換算 13.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費30,000円	
			暖房費(4.5.10月)4,000円	
敷金	無		暖房費(11~3月)7,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800	円

(4) 利用者の概要 (11月 25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	70歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北星病院、北星館、浅沼皮膚科、はた歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この施設は、3階に高齢者用アパートを有し、1~2階のグループホームを含め、建物全体が高齢者の暮らしの場となっています。ホームは運営者を始めとする管理者、スタッフに至る全てが、利用者に普通の生活を提供することを常に心掛け、利用者スタッフとがお互い「めくもり」を感じる関係作りを目指しています。運営者はスタッフの研修によるスキルアップを図ることを目的に、毎月のように研修会の参加を促すなどしています。車椅子での生活を余儀なくされている利用者もいますが、スタッフ自ら車椅子の体験を長時間行ない、利用者本位の意向を確かめる試みなど、良質なサービス提供への模索が続けられています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での取り組みでは、幾つかの改善もしくは着手されている課題がありますが、全体的には取り組みへのアクションが、まだ十分ではありません。管理者やスタッフの全てが評価結果を注視し、共有を図りながら、今後果敢な取り組みが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価では、両ユニットの評価を纏めたため、スタッフの気づきなど、問題意識が多少弱くなる傾向が見られます。外部評価でも昨年からの取り組みが課題として再び提示され、取り組むこととなりましたが、管理者やスタッフは「改善計画シート」の利用により前向きな取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定例的な開催はありますが、会議の内容ではホームの報告事項などが大勢を占めており、地域との交流や外部評価の取り組みを公開するなどの点で、十分ではありません。今後は、毎回のテーマに、専門メンバーを加えるなどの柔軟性のある会議の開催、また外部評価への取り組みのモニター役となっていただくなどの取り組みも期待します。さらに災害時の地域の協力体制に関しても具体的な取り組みを期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との面会頻度を高めて、意見や要望、苦情をいただく機会を多くするため、利用料金などは毎月窓口を持参していただくようにしています。スタッフは家族の来訪時や電話での会話を大切にしながら、意見や要望などの収集にあたり、毎月の会議に諮りながら、サービスの向上に反映するようにしています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者やスタッフの努力により、地域との交流が徐々に深まりを見せていますが、地域への積極的なアプローチ、また啓発の方法など、工夫が必要と思慮します。ホームとしての情報発信に加えて、「地域の一員として何が出来るか」「貢献できるものは何か」など、具体的な方策の検討と実行に今後の果敢な取り組みを期待します。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念は、地域性を推し測ることができるものの、地域に根ざしたホーム運営についての啓発を行なうには、十分とはいえません。	○	これまでの「家庭的な環境の下で」から「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」の理念の下、ホーム運営とサービスの質の向上が図られることが望ましく、地域性が明文化された理念を作りながら、自らの果たすべき役割りと地域への啓発の取り組みを今後期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者とスタッフは、ミーティングの中で理念の意味するものを確認しながら、日常のケアに活かされるよう実践に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年からの課題の一つですが、町内の清掃活動に加えホーム行事の案内、また、駐車場を利用した近隣の子供達を交えての花火、中学校の体験学習の受入れなど、努力の成果は少しずつ見られますが、お互いを支え合う双方向性を持った交流としては、まだ十分とは言えません。	○	現在にも増してホームを身近に感じてもらうため、ホームの会報「めくもり通信」を町内に向けて配布するなどの計画もありますが、掲載内容の工夫が必要と思慮します。また、これまでも増して、地域の一員であることの認識を持ち、交流の幅を広げる果敢な取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に当たっては、スタッフ全員が係わりを持ちながら、日頃のケアを省みるなどしていますが、ユニット毎の取り組みも一本化され、個々の問題意識が多少弱くなる傾向が見られます。また、外部評価では前年度からの課題取り組みも計画的かつ具体的な取り組みが、まだ十分ではありません。	○	自己評価は各ユニットで、それぞれ現場の違いから異なった反省や気づきがあります。今後は敢て一本化せず、ユニットの特色ある自己評価が望まれます。また、外部評価での取り組みには「改善計画シート」の利用により、計画的かつ具体的な改善への取り組みを期待します。

千歳市 グループホーム めくもりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例的な開催が継続されていますが、会議の内容はホーム運営の現況報告や行事内容が大勢を占めており、地域との交流促進や外部評価に対する報告などの面で十分ではありません。	○	ホームからの報告事項に加えて、毎回、テーマを変えながら、専門メンバーを加えるなどの柔軟な取り組みが期待されます。また、自己・外部評価での取り組みを提示しながら、進捗状況についてモニター役を担ってもらうなどの取り組みを今後期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは、入居情報、生活保護者への支援や介護保険事務など、ホーム運営に係わる相談で行き来する機会を作りながら、課題への解決に向けた取り組みが行なわれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしの表情が満載された「めくもり通信」を毎月発行し、家族のもとに送られ好評をいただいています。金銭管理の報告と担当するスタッフの手紙も併せて送付し、家族の安心と信頼をいただけるよう努めています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料金などは、原則、窓口を持参して納入していただき、家族の訪問頻度を増やしながらか情報の伝達、また、意見や要望の収集に当たっています。また、電話による家族との会話も大切にしており、意見や要望、苦情はスタッフ間で共有しながら、運営に反映するようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期の退職による異動は、最近では落ち着きを見せており、安定した馴染みの支援が続けられています。異動があった際には、ユニットリーダーを始めとするスタッフが、馴染みの関係を補いながら、利用者の影響防止に努めることにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、スタッフのスキルアップの大切さを熟知しながら、外部研修への参加機会に配慮しています。概ね毎月1回はスタッフの経験やレベル、また、スキルへの意欲に応じて研修会参加を支援しています。内部研修では車椅子の体験など、具体的な内容も取り入れてケアに役立てています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内のほかの業者との連携には、時間が掛かるようですが、管理者はその必要性を感じながら、ネットワーク作りを模索しており、今後ほかの業者を通じたサービスの向上に期待します。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅から、また、病院や施設から入居される利用者など様々ですが、できるだけ不安が無いようホームの雰囲気を知っていただき、スタッフも家族と相談しながら、徐々に馴染めるよう配慮して支援することとしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや食材の上手な使い方など、スタッフは教わるが多く、暮らしの会話に活かされています。スタッフは利用者の出来ること、できそうなことを見極めながら行なっていたりなど、暮らしをともにすることで、支え合う関係作りをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場に立ったケアを心がけ、コミュニケーションを大切にして思いや意向を把握しながら、安定した暮らしへの支援をしています。困難な場合は、家族のアドバイスや些細な表情などにより、希望や意向を把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に受けた要望も加味したアセスメントが行なわれ、領域検討用紙に纏められた内容が、介護計画に反映して作られています。作成後の実行段階ではモニタリングや再アセスメントを繰り返すなど、利用者本位の介護計画が作られています。管理者は作成に至るプロセスを大切に実践に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最初の入居に際しては、暫定的な計画を作り、モニタリングを集中的に行ない、その後の見直しへと移行します。介護計画見直しの期間設定は、長期を6ヵ月、短期を3ヵ月として行なわれています。状況の変化には医療機関及び家族の意見を聞きながら、臨機応変にプランが作られ、利用者のケアに努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情や要望により、柔軟な支援が行なわれています。病院への付き添いや送迎、特別な買物への同行、近くの銭湯に同行、また、法事への出席など、ホームの有する多機能性の支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関では、隔週での往診が行なわれています。また、利用者の従来からのかかりつけ医の受診についても、医師・看護師と連携をとりながら、利用者の健康管理が行なわれています。利用者の中には訪問リハビリも利用しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、家族として、またホームとしても、できるだけ早期に話し合いによる対応方針の共有が必要とされていますが、ホームでは思考の段階で、具体的な対応までには至っていません。	○	早い段階で終末に対する対応方針を定め、利用者や家族の意向やホームとしての対応を話し合い、可能な支援方法を確認、共有が必要ですので、方針の策定など具体的な取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者に合った丁寧な声掛け、馴れ合いから来るプライバシー侵害の弊害を無くするなど、ユニット会議では、利用者の誇りやプライバシーの確保に向けた協議、確認が行なわれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、日常の業務優先ではなく、利用者がゆったりとしたペースで日々過ごされるよう、配慮しながら支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には、料理の下拵えや配膳、下膳、テーブル拭きなど可能な限り利用者に行なっただき、自力を引き出す工夫をしています。スタッフは利用者の間に座りながら、声掛けなど話題の提供で、楽しい食事への演出に努めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日の入浴も可能としています。入浴をあまり好まない利用者にも週2回は入っていただくよう支援をしています。朝風呂を好む利用者もおり、ゆったりとした入浴の支援が行なわれています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昨年までは、利用者の手芸、裁縫などもありましたが、最近では減少の傾向にあります。それでも料理や自室の掃除、菜園の作業など、日常の楽しみごととして継続され、スタッフは一緒に行ないながら支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでのメリハリをつけるため、外出を多く取り入れるようにしています。天候の良い日を選び近くの公園までの散歩や、買物、回転寿司での食事、少し遠くへの外出では支笏湖や楓狩り、春には花見などに出掛けます。家族の協力をいただいて温泉宿泊も検討されています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は、リスクマネジメントが先行するあまり、ユニットごとで施錠がされています。管理者及びスタッフ間では、施錠がもたらす影響は理解されていますが、具体的な改善の取り組みには至っておりません。	○	日中の施錠は、リスクマネジメントが先行しており、施錠がもたらす弊害と利用者の心理的な不安や閉塞感、家族や社会への印象のデメリットは計り知れません。スタッフの見守りの徹底など、日中は施錠をしない自由な暮らしを支えるセイフティマネジメントへの取り組みを期待します。

千歳市 グループホーム めくもりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導の下、避難訓練やAEDを含む救急救命の訓練が実施されていますが、夜間を想定した避難訓練や地域住民の具体的な協力体制の確立は、まだ十分ではありません。	○	スタッフの配置が少ない夜間での利用者誘導の訓練が必要と思慮します。また、避難に際しての地域住民の具体的な協力や啓発の方法など、運営推進会議や町内会などの理解をいただき、取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は、チェック表で利用者一人ひとりの適正情報が把握され、スタッフは栄養バランスに配慮した献立を作っています。協力医療機関の管理栄養士の指導もいただくなど、適切な支援がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、厨房、居間などの共用スペースは、ゆったりとした広さがあり、利用者は思い思いの場所で、うたた寝やテレビ観戦をしています。壁には華美にならない程度の装飾や写真、クリスマスの飾り物が置かれ季節を感じる配慮があり、居心地の良い共用空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者によって多少の差がありますが、使い慣れた椅子、テーブル、テレビ、整理タンスなど並べられ、落ち着いた雰囲気の居室となっており、利用者は安心の暮らしが継続されています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。